

これからの生活を展望して課題を解決する力を養う学習指導

～思考力，判断力，表現力等をも高める～

神奈川県平塚市技術・家庭科研究会
平塚市立旭陵中学校 中野恵理佳

1 はじめに

現行の学習指導要領における改訂には、「学校で学んだことが、子供たちの『生きる力』となって、明日に、そしてその先の人生につながってほしい。これからの社会が、どんなに変化して予測困難な時代になっても、自ら課題を見付け、自ら学び、自ら考え、判断して行動し、それぞれに思い描く幸せを実現してほしい。」（文部科学省ホームページ https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/1383986.htm より引用）という思いが込められている。この思いを踏まえ、家庭分野において、家族・家庭における生活の中から課題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを論理的に表現するなどの一連の学習過程を通して「思考力，判断力，表現力等」を高めることが重要であると考え、本テーマを設定した。

2 研究のねらい

(1) 生徒の実態

平塚市内抽出6校の1年生614名に、自分や家族の衣生活の中に問題はあるかを問うアンケートを実施した。その結果、「衣服の選択」においては約8割、「衣服の手入れ」においては約7割、「布を用いた製作」においては約9割の生徒が「生活の中に問題はない」と回答した（図1）。

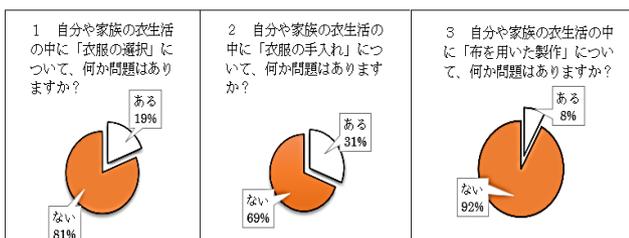


図1 アンケートの結果

また、上記アンケートに回答した生徒を対象に「洗濯の仕分け方」についての問いを出題し解答を分析した（表1）。学んだ知識及び技能を活用して生活課題の解決を目指しているかどうかを「①衣服の材料（繊維・色）に応じた洗濯方法」「②汚れ方に応じた洗濯方法」の2つの観点で評価した結果、知識及び技能を活用して生活課題が解決できた生徒【おおむね満足できる状況（B）と判断された生徒、及び十分満足できる状況（A）と判断された生徒】の割合は、①が約40%、②が約46%であった（図2）。

表1 生徒の解答と評価の例

「洗濯かごの中に、母の花柄のエプロン、父の紺色のデニムシャツ、姉の毛のセーター、野球で汚れた弟の靴下、自分の紺のワイシャツ、タオルが入っています。あなたはどのような工夫をして洗濯をしますか。その理由も記入しましょう。」に対する生徒の解答例	①衣服の材料（繊維・色）に応じた洗濯方法の観点で評価した結果	②汚れ方に応じた洗濯方法の観点で評価した結果
例) 各物ごとに洗剤を変える 理由は、違う洗剤にしないとぐしゃぐしゃになるから	知識・技能の活用が見えず、具体性に欠ける解答なので、(B)に到達せず	知識・技能の活用が見えず、具体性に欠ける解答なので、(B)に到達せず
例) 紺色のデニムシャツは色移りしてしまうので他のものと分けて洗う。 毛のセーターは、中性洗剤で別洗いし、よれたりしちゃうから洗濯ネットの中に入れて洗う。 汚れた靴下は洗濯する前にもみ洗いし、ある程度事前に汚れを落としてから洗濯機に入れる。 ワイシャツとタオルは同じ綿なので一緒に洗う。	(B)に到達 知識・技能の活用が見られた(実線)	(B)に到達 知識・技能の活用が見られた(点線)

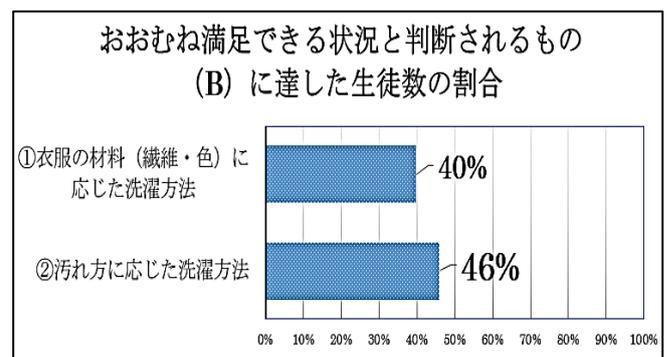


図2 生徒数の割合

(2) 目指す生徒像

テーマ設定の理由や生徒の実態から、目指す生徒像を次のように設定した。

衣服の選択、材料や状態に応じた日常着の手入れの仕方、生活を豊かにするために布を用いた物の製作計画や製作について、問題を見いだして課題を設定し、これからの生活を展望して課題を解決しようとする生徒。

3 研究仮説

最も育成したい資質・能力は「思考力、判断力、表現力等」だと考えた。この資質・能力を高めるためには、「解決すべき課題を設定する力（以下『課題設定力』とする）」を身に付けることが重要である。将来にわたって自立した生活を営む見通しをもち、よりよい生活の実現に向けて、身近な生活の課題を主体的に捉えることができれば、その後の課題の解決に向けても主体的に取り組むことができると考えられる。そこで次の3つの仮説を立てた。

- ①課題設定力を身に付けることで、主体的な学びにつながり、解決策を工夫したり、実践の内容を振り返って改善したり、考察したことを論理的に表現したりするようになるであろう。
- ②課題設定力を身に付けることで、実生活をよりよくしようとする姿勢が身に付くであろう。
- ③課題設定力を身に付けることで、知識及び技能の定着につながるであろう。

4 研究の内容

(1) 指導と評価の計画

題材「健康・快適・安全で持続可能な衣生活」を17時間の指導内容で計画した。

1時間目は、「健康・快適・安全で持続可能な衣生活を目指す」という学習の目的を明確にして、題材を貫く課題を設定した。3時間目は、本市内では1年生の4、5月に授業を行う実状に合わせ、今後の課題設定がイメージしやすくなるように共通課題を設定した。8時間目は、夏の長期休業中に具体的な実践を通して解決を目指す課題を設定した。13時間目は、基礎縫いの学習で作成した作品を資源や環

境に配慮してリメイクする実習を通して解決を目指す課題を設定した。

(2) 課題設定までの教師と生徒のプロセス

表3-1 題材を貫く課題設定までのプロセス

教師の指導の留意点	生徒の学習活動
(i)・学習指導要領について理解を深め、指導と評価の計画を立て、題材のガイダンスを行う。 ・家庭科の見方・考え方を働かせるような手立てを考える。 ・実生活に興味・関心をもたせる。	(i) 家庭科の見方・考え方を働かせながら、実生活を自分事として振り返る。
(ii)・生活の課題を主体的に捉えさせ、課題の文末を「～するにはどうしたらよいか」等に工夫する。 ・将来にわたって自立した生活を営むように見通しをもたせる。	(ii)・問題を見いだして課題を設定する方法を知る。 ・よりよい生活の実現に向けて「～するにはどうしたらよいか」を考える。
(iii) 評価を指導に生かす。	

表3-1は、生徒が「題材を貫く課題を設定するまでのプロセス」をまとめたものである。

まず(i)教師が学習指導要領について理解を深めたうえで、指導と評価の計画を立て、生徒に題材を貫いて何を学ばせていきたいかを踏まえて、ガイダンスを行う。また教師が生活の営みに係る見方・考え方を働かせるような手立てを考え、実生活に興味・関心をもたせるように授業を工夫することで、生徒が見方・考え方を働かせながら題材を捉えるようになり、実生活をより現実的に捉え、自分事として振り返ることができるようになる。

次に(ii)教師が生活の課題を主体的に捉えさせ、将来にわたって自立した生活を営むように見通しをもたせることで、生徒はよりよい生活の実現に向けて課題設定ができるようになる。

最後に(iii)教師はガイダンスの授業の評価を今後の指導に生かしていく。

表3-2 小題材の課題設定までのプロセス

教師の指導の留意点	生徒の学習活動
(i)・家庭科の見方・考え方を働かせるような手立てを考える。 ・実生活に興味・関心をもたせる。 ・既習の知識及び技能を活用して思考させる。	(i) 家庭科の見方・考え方を働かせながら、実生活を自分事として振り返り、実生活の中から問題を見いだす。
(ii)・生活の課題を主体的に捉えさせ、課題の文末を「～するにはどうしたらよいか」等に工夫する。 ・将来にわたって自立した生活を営むように見通しをもたせる。	(ii)よりよい生活の実現に向けて「～するにはどうしたらよいか」を考える。

表3-2は、生徒が「小題材の課題を設定するまでのプロセス」をまとめたものである。

まず (i) 教師が生活の営みに係る見方・考え方を働かせるような手立てを考え、実生活に興味・関心をもたせて、既習の知識及び技能を活用して思考させるように授業を工夫することで、生徒が見方・考え方を働かせながら小題材を捉えるようになり、実生活をより現実的に捉え、自分事として振り返り問題を見いだすことができるようになる。

次に (ii) 教師が課題を主体的に捉えさせ、将来にわたって自立した生活を営むように見通しをもたせることで、生徒はよりよい生活の実現に向けて課題設定ができるようになる。

また「題材を貫く課題」及び「小題材の課題」の設定において特に重要視したのは、「生活の問題」を「解決すべき生活の課題」として捉えるために課題の文末を「～するにはどうしたらよいか」等に工夫した点である (図3)。

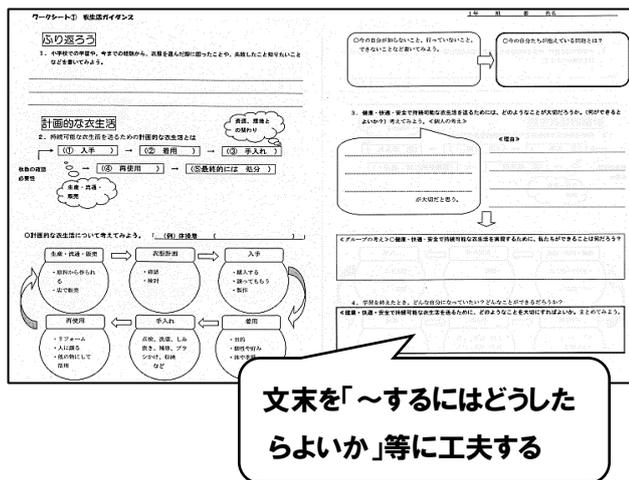


図3 ワークシートの例

(4) 授業の工夫

「小題材の課題設定までのプロセス」を踏まえて、課題設定をさせた8時間目の授業実践例を紹介する。

本時の目標は、B(4)イの実践に向けて、身近な生活の中から日常着の手入れ(洗濯)に関する問題を見だし、実践に向けた課題を設定することである。この目標を達成するために、健康・快適・安全の視点、及び持続可能な社会の構築の視点で日常着の手入れ(洗濯)について考えさせるような手立てを考えた。

また前時は、実生活の洗濯に興味・関心をもたせ

るためにしみ抜き実験を行い、体験的学習を行った。本時の授業の始まりに、前時の実験内容をより具体的に振り返るために、1人1台ICT端末を活用したり、教室の大型モニターを活用したりと、要点を視覚化した(図4)。

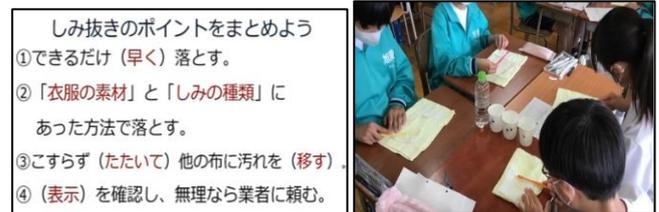


図4 しみ抜き実験のスライド・授業の様子

さらに安全に洗剤を使うにはどうしたらよいか、環境に配慮した水や洗剤の使い方はどう考えていくか等、日常着の手入れ(洗濯)を自分事として捉えさせ、見方・考え方を働かせながら振り返りができるよう声かけをおこなった。

次に個人の生活経験を基に実生活を見つめ直し、洗濯をする上での問題を考えさせた。個人の考えをグループで共有することで、一人では気づくことができなかった問題に気づくことができた。またそれぞれが思いついた問題を解決するために、既習の知識及び技能を活用して思考させたり、何について調べれば解決できるのかを考えさせたりした。このような活動を通して、問題を多面的・多角的に捉えられるようにした(図5)。



図5 個人の考えを付箋に書き出す様子 及びグループで共有する様子

授業のまとめの時間で、自分の日常着の手入れ(洗濯)についての課題を主体的に考えさせた(図6「①課題設定」)。生活の中から問題を見いだして、解決すべき「生活の課題」として捉えるために、課題の文末を工夫することで、よりよい生活の実現に向けて、自然と生徒が解決策を考えるようにした。また本時のジグソー法の学習において、解決策の構想方法を学んだことにより、実践レポート(図6)

に取り組むイメージが湧きやすくなった。

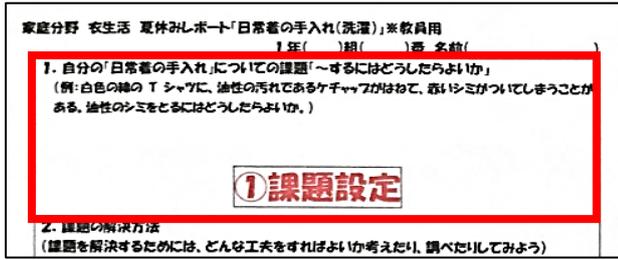


図6 実践レポート「日常着の手入れ(洗濯)」

課題解決までの一連の学習過程がイメージできると、見通しをもちながら主体的に学習をすることができる。さらに実践レポートは、将来にわたって自立した生活を営むことを目標にして取り組むように、生徒に呼びかけた。

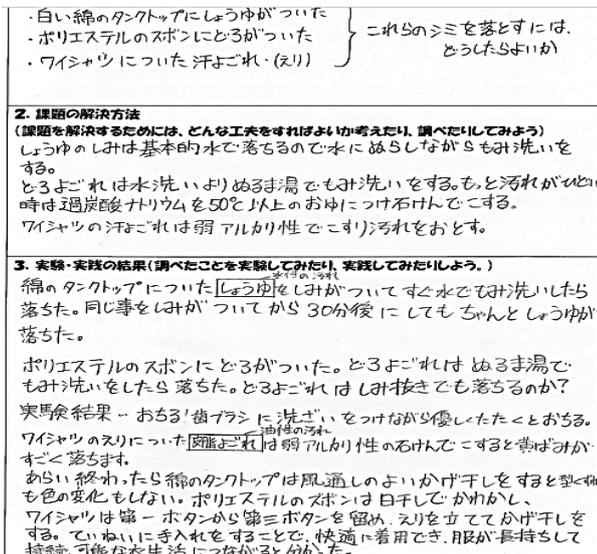


図7 生徒の実践レポート

その結果、実践レポートは解決策を詳しく具体的に考えたり、見方・考え方を働かせながら実践の内容をまとめたりする様子(図7)が見られた。生徒は課題を解決できた達成感や実践する喜びを感じ、さらに次の学習に主体的に取り組むようになった。

4 おわりに

(1) 研究の成果

事前アンケートに回答した生徒を対象に、事後アンケートを実施した。「衣服の洗濯」、「衣服の手入れ」、「布を用いた製作」のいずれにおいても「生活の中に問題がある」という生徒が増えた(図8)。自

らの生活の中から問題を見いだせるようになったことで、実生活をよりよくしようとする姿勢が以前より身に付いたと言える。

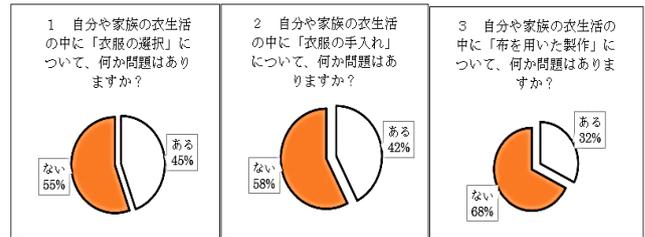


図8 事後アンケート結果

成果としては、問題を見いだして課題を設定する方法として、文末を「～するにはどうしたらよいか」等の工夫を研究したことがあげられる。課題の文末を工夫することで、見いだした問題を生活の課題にしていくようになった。

また課題を設定する際に、周りの意見を聞くことで、多面的・多角的に課題を捉えられるようになることがわかった。そして実践レポートとして完成させたものを相互に発表し合う活動を通して、夏休みに実践した内容を評価し合い、さらによりよい生活の実現に向けて改善しようとする生徒が増えた。

このような結果から以下のことが言える。

- ①課題設定力を身に付けることで、主体的な学びにつながり、解決策を工夫したり、実践の内容を振り返って改善したりするようになる。
- ②課題設定力を身に付けることで、実生活をよりよくしようとする姿勢が身に付く。
- ③課題設定力を身に付けることで、知識及び技能の定着につながる。

(2) 今後の課題

課題設定力は身に付いたが、課題解決に向けた一連の学習過程の中で考察したことを論理的に表現する力については課題が残ったように感じる。例えば、レポート等へ書き記すことを難しく感じる生徒、1人1台 ICT 端末等を活用することで表現しやすくなる生徒や話し合い活動だと表現しやすくなる生徒など、生徒の様子は様々であるので、今後どのようなツールを使い、論理的に表現させていくのかをさらに検討していきたい。